

サンマ食へ気仙沼支援

東日本大震災（2011年）で被災した宮城県気仙沼市のサンマを食べて復興を支援する「たまの旬のさんま祭り」が21日、玉野魚市場（宇野）と三井生協本部店（玉）で開催された。本部店会場には西日本豪雨の被災地支援の募金箱も置かれ、家族連れらが旬の味を楽しみながら、東日本や県内の被災地に思いを寄せた。

市内2会場で祭り



漁協直送各550匹

西日本豪雨の募金箱も 家族連れら堪能

さんま隊」のメンバー、ボランティアの玉野高生徒ら約120人が、炭火で焼いて1匹500円で販売した。

三井生協本部店では、香ばしい匂いに誘われて買い物客が集まり、焼き目の付いたサンマに大根おろし、しよゆ、カボスを添えて堪能した。会社員寺尾拓海さん（27）＝和田＝は「脂がよく乗っていておいしい」と感想を述べた。

サンマの売り上げはさんま隊を通じて気仙沼市に寄付する。募金の送り先は三井生協が今後決める。

市内の商業関係者らでつくる「玉野さんま祭り推進会」が16年から毎年開いており、気仙沼市の漁協などから直送したサンマを各会場550匹用意。県内各地で同様のイベントを開く「吉備笹の葉焼」サンマを焼く女性ら＝三井生協本部店

ボランティアで参加した玉野高2年大賀光達さん（17）は「豪雨被害に遭った倉敷市真備町でボランティアを経験し、もっと被災地の力になりたいと思った。自分たちができる支援をこれからも続けたい」と話した。

（内田貴大）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。